厚生労働省委託事業:感染症危機管理リーダーシップ人材育成事業

令和8年度IDCL(長期) 9月の研修

(寄稿)危機管理・運営局 企画調整部政策研究課 研究開発連携室　佐藤瞳

感染症危機管理リーダシップ研修（IDCL）では、感染症危機管理に関連する機関の役割や業務を理解し、感染症危機時における分野横断的な調整力をつけることを目的に、実践研修（OJT）を実施しています。9月には国立健康危機管理研究機構 臨床研究センターにおいて研修を行いました。

長期コース

9月 臨床研究センター



9月1日(火) 研修の様子



臨床研究センター 杉浦 亙センター長

研究倫理や臨床研究、治験管理、データマネジメント等に関する講義・施設見学が実施されました。研究倫理・臨床倫理の講義では、ベルモント・レポートをはじめとする倫理的原則と、感染症危機下における研究・診療の在り方について学びました。また、COVID-19対応における疫学調査や治療薬開発、国際共同研究、研究基盤整備に関する取組の紹介に加え、臨床研究データ管理システム（REDCap）の操作体験や研究施設の見学も行われました。研修生からは、感染症危機に備えるためには、医療提供体制の整備だけでなく、研究・治験を迅速に実施できる体制や平時からの基盤整備が重要であるとの意見が寄せられました。



9月14日(月)
臨床研究センター産学連携推進部技術室での
実験業務体験



9月16日(水)
臨床研究センター 臨床研究統括部 教育研修室 室長 松下 由実 氏(右から3番目)
臨床研究センター インターナショナルトライアル部 部長 時田 大輔 氏(右から4番目)

短期コース

短期コースでは、公衆衛生行政、医療、感染症疫学や臨床等に関する専門的な知見、経験を有する、既存の多様な職種の感染症専門人材が、感染症危機管理を担う関連機関の業務や役割、機能を理解し、感染症危機時のリーダーシップの基礎に関して知見を深めることを目的に実施しています。

令和8年度は９月から11月の3ヵ月間のうち、9月に3日間、10月に2日間、11月に２日間の研修を予定しています。今回は9月に実施した３日間の研修を紹介します。

9月9日　開会式・対面研修





9月10日　対面研修





今年度は全国の自治体から36名が参加し、保健師、医師、薬剤師、事務など様々な職種で構成されています。9月9日に短期研修の開会式を行い、リーダーシップ論に関する対面研修を9月9日と10日の2日間にわたって実施しました。研修生からは、目的と目標の設定や、自分自身やチームメンバーの考え方の癖を見直し、組織づくりに生かしていきたいとの意見がありました。

9月11日　羽田空港検疫所支所





9月11日、羽田空港検疫所支所にて検疫業務の講義を受け、施設を見学しました。研修生からは、検疫所と保健所の法的根拠や役割の違いが理解でき、実際に現場を見たことで、今後検疫所と保健所で連携する際のイメージを持つことができたとの声が上がりました。